



進む大学との連携事業

綾町と包括的連携協定を結んでいる宮崎大学・南九州大学との連携事業報告会は、3月2日にオンラインで行われました。

この連携事業は、大学が町の地域資源や課題について調査・研究し、課題解決や産業振興などについて役立つ実証データの活用方法や新たな取り組みなどについて提案を行うもので、令和2年度は7件の研究が行われました。

宮崎大学農学部的光田靖教授の「里地・里山の土地利用による景観がもたらす生態系サービスの影響」をテーマにした研究では、平成28年から町内の果樹園で



調査が行われています。日向夏の花を訪れるニホンミツバチの数を調査した結果、綾町の農

地ではニホンミツバチの数が他地域よりも多いことが分かり、長年にわたる環境保護や有機農業がニホンミツバチの生態に良い影響を与えていることが科学的に証明されました。

南九州大学健康栄養学部の吉本博明教授による「綾ユネスコエコパーク産蜂蜜を利用した新規食品開発プロジェクト」の研究は、光田教授の調査結果を生かし、自然の恵みを生かした農産物IIエコプロダクトの開発を目指すものです。吉本教授はイオンの森に設置したニホンミツバチの巣箱から採取したハチミツの成分を分析。他地域のハチミツ2種と比較してグルタミン酸やトリプトファンなどのアミノ酸総量が最も高く、疲労回復や睡眠導入などの効果が期待できる可能性が明らかになりました。

吉本教授は、綾ユネスコエコ

パーク産のハチミツと町内の野菜や果実を使った加工食品の試作にも取り組んでいます。また光田教授は、花粉のDNA解析などによりハチミツの蜜源となる植物の調査を計画しており、両大学が相互連携しながら研究を展開していくことになります。

その他の研究テーマ

宮崎大学

- ・自然生態系農業システムの水環境への影響に関する研究(地域資源創生学部・戸敷浩介准教授)
- ・自然生態系農業における窒素循環に関する研究(同・西和盛准教授)
- ・綾の肖像プロジェクト・集落ビジョンに関する研究(同・松岡崇暢准教授)

- ・ニホンヤマナ等の樹上性小型哺乳類の生態調査と地域資源化(農学部・坂本信介准教授)

南九州大学

- ・綾ユネスコエコパークにおける探求をベースとしたESDの実践(人間発達学部・遠藤晃教授)

問い合わせ先／

ユネスコエコパーク推進室

☎ 77・3482

URL <https://ayabrcenter.jp>

column

ツチガエル

以前紹介したヌマガエルと共に「イボガエル」と呼ばれるカエルです。背中にはイボがたくさんあり触るとざらざらします。また、つかむとネバネバした粘液を出して悪臭を放ちます。

春先の産卵期には、水辺で「ギユウギユウ」という独特な鳴き声でオスが鳴きメスにアピールします。オタマジャクシのまま冬を越すことがある特殊な生態を持ち合わせており、常に水があるところを好むようです。

綾では山に近い小川などでよく見ることができます。田んぼの周辺に多いヌマガエルと共に2種類のイボガエルを見つけて見比べてみてください。

